

## 「障害者スポーツ」に対する意識レベルについて(2) — 2年分の調査から —

保井俊英\*, 永田隆子\*, 三上真二\*\*  
\*(武庫川女子大学文学部健康・スポーツ科学科)  
\*\*(大阪市長居障害者スポーツセンター)

## About the consciousness level to “Sports for the disabled” (2) — From the investigation of two years —

Toshihide Yasui, Ryuko Nagata, Shinji Mikami

\**Department of Health and Sports, School of Letters,  
Mukogawa Women's University, Nishinomiya, 663-8558, Japan*  
\*\**Osaka City Nagai Sports Center for Persons with Disabilities,  
\*Osaka, 546-0034 Japan*

### Abstract

We investigated the consciousness level to “Sports for the disabled”. It was investigated by using the same questionnaire as last year. The purpose of the investigation was to understand the current state and to have made the best use of in the future. The respondent to a surveys were 154 new students.

- 1) The student that it wanted to Qualification as a “Sports Trainer of the Disabled: Intermediate Trainer” was 69.5% every 107 people. Moreover, the student who had answered that it was interested in “Sports for the disabled” was 46.8% every 72 people.
- 2) “There is a disabled person in my environment” student was 27.3 % every 42 people. Moreover, the student who had participated in the volunteer of “Sports for the disabled” was 31.2% every 48 people. In addition, the student who had seen media that related to “Sports for the disabled” was 94.8% every 146 people.
- 3) The student answered the item of “Sports for the disabled” that I knew. 73 person wheelchair basketball was 47.4%, 59 person basketball was 38.3%, 36 person swim was 23.4%, and 33 person track and field sports were 21.4% .
- 4) We should serve to about 50 % interesting student. Especially, we should devise it so that the student may easily pile up the guidance results.

### 1. はじめに

本学健康・スポーツ科学科における障害者スポーツ指導者制度中級スポーツ指導員(以下中級スポーツ指導員とする)の資格取得に関する調査研究は、2002(平成14)年より進め、7年間7題にわたって報告してきた<sup>1-7)</sup>。

2008(平成20)年度入学生より、本学健康・スポーツ科学科の新しいカリキュラムが実施され、それまでの状況と変化しようとしている。コース(健康運動科学コースと競技スポーツコース)の撤廃がこの要因である。つまり、1つのコース(健康運動科学コース)のみに適用されていた中級スポーツ指導員資

格が、学年全体を対象とする資格になった。過去5年間の「中級スポーツ指導員資格」取得者は、2004(平成16)年度24名、2005(平成17)年度20名、2006(平成18)年度35名、2007(平成19)年度20名、2008(平成20)年度24名という状況で、毎年20名程度は取得していることになる。この数が今後、増加する可能性を持っている。しかし、同時に新しいカリキュラムは、障害者スポーツ関連科目の開講期も変化させた。基幹3科目である「障害者スポーツ論Ⅰ」は、2年次後期から3年次後期へ、また「障害者スポーツ論Ⅱ」は3年次前期から4年次前期へ、さらに「障害者スポーツ指導法」は3年次後期から4年次後期へ変更となった。このようにほぼ1年遅れで実施されるようになった障害者スポーツ関連科目は、学生への意識を遅らせる要因になるとも考えられる。2009(平成21)年度現在、中級スポーツ指導員資格の取得は、①所定の単位取得と②「卒業までに3年間にわたって、120時間(15日)以上の指導実績を積んだ者」(以下指導実績とする)とが資格申請の条件となっている。単位の取得は、比較的容易に進むと考えられるが、指導実績は学生個人が自ら時間をつくるため、その意識が遅ければ遅いほど、「駆け込み型」<sup>4-6)</sup>が増え、場合によっては資格取得を断念するということも考えられる。

前回報告<sup>7)</sup>したように中級スポーツ指導員資格取得を「強く希望する」9名(5.4%)、「希望する」99名(43.7%)と障害者スポーツについて「非常に興味ある」16名(9.6%)、「興味ある」73名(43.7%)という学生が存在だけに、彼女らを対象にして中級スポーツ指導員資格取得しやすい状況を整備していく必要がある。

そこで、今回も前回調査と同様に新入生を対象に、「障害者スポーツ」に対する意識レベルについて同じ「障害者スポーツ指導者資格についてのアンケート」<sup>7)</sup>を実施し、全般的な傾向、そして前回調査分との比較等を行うことにより、現状を把握し、今後の指導に生かすことを目的に研究に取り組んだ。

## 2. 方法

2009(平成21)年度大学・健康スポーツ科学科入学生に対して、11項目についてアンケート調査<sup>7)</sup>を行った。調査期間は7月中旬で、学科専門科目選択必修「バレーボール」の授業終了後対象者に依頼し、出席者154名より回答があり、その結果を集計した。

また、今回調査分と比較検討するために、2008(平成20)年度大学・健康スポーツ科学科入学生によるアンケート集計結果<sup>7)</sup>を用いた。両者間の比較は、独立性の検定を用いた。

## 3. 結果および考察

### (1) 障害者スポーツ指導員資格取得の希望について

Table1に、2008(平成20)年度調査(以下昨年度調査とする)と2009(平成21)年度調査(以下本年度調査とする)の比較を示した。

本年度調査によると、障害者スポーツ指導員資格の取得を、「①強く希望している」33名(21.4%)、「②希望している」70名(45.5%)、「③希望しない」18名(11.7%)、「④わからない」33名(21.4%)であった。また、中級スポーツ指導員資格の取得を、「①強く希望している」19名(12.3%)、「②希望している」52名(33.8%)、「③希望しない」23名(14.9%)、「④わからない」60名(39.0%)であった。この結果は、いずれの資格取得においても、「②希望している」が減少し、その分が「③希望しない」あるいは「④わからない」を増加させている傾向にある。昨年度調査と本年度調査の間には、それぞれ5%、1%水準で有意な差があった。

中級スポーツ指導員資格取得を「強くあるいは希望している」学生は、本年度調査によると合わせて71名(46.1%)で、昨年度調査の108名(62.1%)に比較すると、約16%減少する傾向があるが、「強く希望している」に限ってみると、約7%増加を示した。これは、はっきりと目的意識をもった学生が増えたと考えられる。

「障害者スポーツ」に対する意識レベルについて(2)

Table 1. アンケート結果(2年分比較)

		平成 20 年度調査 (n=167)		平成 21 年度調査 (n=154)		備考
		人数	%	人数	%	
スポーツ指導員の資格取得を	①強く希望している	32	19.2%	33	21.4%	(p<0.05)
	②希望している	102	61.1%	70	45.5%	
	③希望しない	9	5.4%	18	11.7%	
	④わからない	24	14.4%	33	21.4%	
	⑤無回答	0	0.0%	0	0.0%	
中級スポーツ指導員の資格取得を	①強く希望している	9	5.4%	19	12.3%	(p<0.01)
	②希望している	99	59.3%	52	33.8%	
	③希望しない	19	11.4%	23	14.9%	
	④わからない	40	24.0%	60	39.0%	
	⑤無回答	0	0.0%	0	0.0%	
障害者スポーツについて	①非常に興味がある	16	9.6%	16	10.4%	(p<0.01)
	②興味がある	73	43.7%	56	36.4%	
	③ふつう	52	31.1%	68	44.2%	
	④あまり興味がない	22	13.2%	13	8.4%	
	⑤全く興味がない	2	1.2%	1	0.6%	
	⑥無回答	2	1.2%	0	0.0%	
前期全学共通教育科目「遊びと障害」を	①履修した	5	3.0%	9	5.8%	NS
	②履修しなかった	159	95.2%	136	88.3%	
	③履修したが許可がでなかった	3	1.8%	9	5.8%	
	④無回答	0	0.0%	0	0.0%	
前期全学共通教育科目「障害者とスポーツ」を	①履修した	15	9.0%	12	7.8%	NS
	②履修しなかった	145	86.8%	130	84.4%	
	③履修したが許可がでなかった	7	4.2%	12	7.8%	
	④無回答	0	0.0%	0	0.0%	
大健3年次後期「障害者スポーツ論Ⅰ」を	①履修する	15	9.0%	22	14.3%	NS
	②履修しようと思う	61	36.5%	41	26.6%	
	③履修しない	19	11.4%	12	7.8%	
	④わからない	72	43.1%	79	51.3%	
	⑤無回答	0	0.0%	0	0.0%	
身近なところに障害者が	①いる	46	27.5%	42	27.3%	NS
	②いない	120	71.9%	112	72.7%	
	③無回答	1	0.6%	0	0.0%	
障害者と交流するボランティアに参加したことが	①ある	56	33.5%	48	31.2%	NS
	②ない	110	65.9%	106	68.8%	
	③無回答	1	0.6%	0	0.0%	
障害者スポーツに関するテレビ番組・新聞記事等を	①よく見る	20	12.0%	24	15.6%	NS
	②たまにみる	134	80.2%	122	79.2%	
	③全く見ない	11	6.6%	8	5.2%	
	④無回答	2	1.2%	0	0.0%	
障害者の種類で聞いたことのあるものは(複数回答)	①身体障害者	162	97.0%	151	98.1%	NS
	②知的障害者	158	94.6%	146	94.8%	
	③精神障害者	82	49.1%	88	57.1%	
	④視覚障害者	152	91.0%	144	93.5%	
	⑤聴覚障害者	148	88.6%	142	92.2%	
	⑥内部障害者	9	5.4%	5	3.2%	
	⑦その他	0	0.0%	1	0.6%	
	⑧無回答	0	0.0%	0	0.0%	

**(2) 障害者スポーツへの興味について**

本年度調査によると、障害者スポーツについて、「①非常に興味がある」16名(10.4%)、「②興味がある」56名(36.4%)、「③ふつう」68名(44.2%)、「④あまり興味がない」13名(8.4%)、「⑤全く興味がない」1名(5.8%)であった。昨年度調査と比較すると、「①興味がある」と「②あまり興味がない」が減少し、その分が「③ふつう」が増加した傾向となった。昨年度調査と本年度調査の間には、1%水準で有意な差がみられた。

また、Table2に、本年度調査による中級スポーツ指導員資格の取得希望と障害者スポーツへの興味の関係を示した。中級スポーツ指導員資格の取得希望と障害者スポーツへの興味の関係が強い( $p<0.01$ )。したがって、「非常に興味がある」「興味がある」学生(72名, 46.7%)が、中級スポーツ指導員資格の取得をめざすであろうと考えられる。

**Table 2.** 中級スポーツ指導員資格の取得希望と障害者スポーツに対する興味の関係

		中級スポーツ指導員資格取得を				計
		①強く希望している	②希望している	③希望しない	④わからない	
障害者スポーツに対して	①非常に興味がある	8	6	0	2	16
	②興味がある	8	22	13	13	56
	③ふつう	1	21	8	38	68
	④あまり興味がない	0	3	2	8	13
	⑤全く興味がない	1	0	0	0	1
	計	18	52	23	61	154

n=154

**(3) 1年次前期全学共通教育科目障害者スポーツ関連授業の受講について**

中級スポーツ指導員資格の取得には直接関係のない、全学共通教育科目「遊びと障害」「障害者とスポーツ」における1年次前期の履修状況を見ることにより、興味度をみることにした。本年度調査によると、「遊びと障害」は、「①履修した」9名(5.8%)、「②履修しなかった」136名(88.3%)、「③履修したが許可がでなかった」9名(5.8%)であった。また、「障害者とスポーツ」は、「①履修した」12名(7.8%)、「②履修しなかった」130名(84.4%)、「③履修したが許可がでなかった」12名(7.8%)であった。両科目に対して重複の履修希望を出した学生(履修した+履修したが許可がでなかった)は10名であり、合計から差し引くと32名(20.7%)が障害者スポーツの科目履修をしようとしたことになる。この割合は、昨年度調査による30名(18.0%)とほぼ同数であり、約20%の学生が興味を示し関連科目の履修を試みたと考えられる。

**(4) 3年次後期開講「障害者スポーツ論I」の履修について**

本年度調査によると、3年次後期開講「障害者スポーツ論I」を、「①履修する」22名(14.3%)、「②履修しようと思う」41名(26.6%)、「③履修しない」12名(7.8%)、「④わからない」79名(51.3%)であった。この結果から、昨年度同様、中級スポーツ指導員資格を取得するために必要な科目であると理解されていないのかもしれない。

また、本年度は、昨年度の反省から、4月初旬入学時の全資格オリエンテーション時にプリントを配布するなど工夫をしてきた。しかしながら、アンケート調査を実施するにあたり、別授業(バレーボール実技)の終わり際ということもあってか、「わからない」という回答が多かったのが特徴である。昨年度調査と本年度調査は同じ方法のため、年度による個人差としてしかとらえることはできなかった。

いずれにせよ、昨年度同様中級スポーツ指導員資格を希望しないと断言していない学生が多い中、適宜にガイダンスを実施し、必要な情報を提供する必要があると考えられる。

## (5) その他の質問について

本年度の調査によると、自分の身近なところに障害者が、「①いる」42名(27.3%)、「②いない」112名(72.7%)であった。また、障害者と交流するボランティアに参加したことが、「①ある」48名(31.2%)、「②ない」106名(68.8%)であった。さらに、障害者スポーツに関するテレビ番組・新聞記事等を、「①よく見る」24名(15.6%)、「②たまに見る」122名(79.2%)、「③全く見ない」8名(5.2%)であった。これらの結果より、障害者と直接接した経験のある学生は全体の約3分の1、テレビ・新聞等で障害者スポーツを見た経験がある学生は、ほとんど(146名、94.8%)ということがいえる。これは、ほぼ昨年度調査と同じ割合であった。

また、知っている障害者の種類として、「①身体障害者」151名(98.1%)、「②知的障害者」146名(94.8%)、「③精神障害者」88名(57.1%)、「④視覚障害者」144名(93.5%)、「⑤聴覚障害者」142名(92.2%)、「⑥内部障害者」5名(3.2%)、「⑦その他」1名(0.6%)であった。この結果も昨年度調査とほぼ同様であり、認知度の高いのは、身体障害者、知的障害者、視覚障害者、聴覚障害者で、認知度の低いのは精神障害者、内部障害者ということが出来る。

最後に、障害者スポーツで自分が知っている種目を最大3つあげさせ、昨年度調査と本年度調査の比較をTable3に示した。本年度調査上位4種目は昨年度調査と変わらず、車椅子バスケットボール73名(47.4%)、バスケットボール59名(38.3%)、水泳36名(23.4%)、陸上33名(21.4%)であった。以下10名を超えたのが、テニス22名(14.3%)、マラソン11名(7.1%)、ボッチャ10名(6.5%)であった。ボッチャについては、全学共通教育科目「遊びと障害」「障害者とスポーツ」の履修者が10名中8名ということから、授業の影響が大きいと考えられる。また本年度調査と昨年度調査を合計すると、車椅子バスケットボール150名(46.7%)、バスケットボール134名(41.7%)、水泳78名(24.3%)、陸上70名(21.8%)、テニス31名(9.7%)、車椅子テニス27名(8.4%)、バレーボール25名(7.8%)、トリアスロン18名(5.6%)、マラソン15名(4.7%)、サッカー15名(4.7%)がベスト10であった。メディアへの露出度、学生本人の経験、そして全学共通教育障害者スポーツ関連授業の履修が、このような結果を招いたと考えられる。

Table 3. 障害者スポーツで知っている種目8最高3種目まで複数回答可

	平成20年度調査(n=167)		平成21年度調査(n=154)		合計(n=321)			平成20年度調査(n=167)		平成21年度調査(n=154)		合計(n=321)	
	人数	%	人数	%	人数	%		人数	%	人数	%	人数	%
車椅子バスケットボール	77	46.1%	73	47.4%	150	46.7%	野球	3	1.8%	0	0.0%	3	0.9%
バスケットボール	75	44.9%	59	38.3%	134	41.7%	車椅子ハンドボール	2	1.2%	0	0.0%	2	0.6%
水泳	42	25.1%	36	23.4%	78	24.3%	サウンドテーブルテニス	2	1.2%	0	0.0%	2	0.6%
陸上	37	22.2%	33	21.4%	70	21.8%	チェアスキー	1	0.6%	1	0.6%	2	0.6%
テニス	9	5.4%	22	14.3%	31	9.7%	アーチェリー	2	1.2%	0	0.0%	2	0.6%
車椅子テニス	10	6.0%	17	11.0%	27	8.4%	車椅子卓球	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
バレーボール	16	9.6%	9	5.8%	25	7.8%	スケート	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
トリアスロン	12	7.2%	6	3.9%	18	5.6%	アイスホッケー	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
マラソン	4	2.4%	11	7.1%	15	4.7%	視覚障害ソフトボール	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
サッカー	7	4.2%	8	5.2%	15	4.7%	ソフトボール	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
ボッチャ	4	2.4%	10	6.5%	14	4.4%	風船バレー	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
シッティングバレーボール	8	4.8%	4	2.6%	12	3.7%	バドミントン	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
車椅子マラソン	5	3.0%	5	3.2%	10	3.1%	ゴールボール	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
スキー	7	4.2%	3	1.9%	10	3.1%	ボウリング	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
ブラインドサッカー	4	2.4%	4	2.6%	8	2.5%	剣道	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
車椅子バレーボール	2	1.2%	3	1.9%	5	1.6%	ダンス	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
(電動)車椅子サッカー	1	0.6%	3	1.9%	4	1.2%	車椅子ダンス	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
ハンドボール	4	2.4%	0	0.0%	4	1.2%	ベタンク	0	0.0%	1	Table	1	0.3%
卓球	4	2.4%	0	0.0%	4	1.2%							

#### (6) 今後の課題について

2年分の調査結果をまとめると、障害者スポーツに「非常に興味がある・興味がある」学生は、およそ50%存在している。また、中級スポーツ指導員の資格取得を「強く希望している・希望している」学生はおよそ60%存在している。これらの学生たち、すなわち学年のおよそ半分の学生が、中級スポーツ指導員資格取得の可能性を持っている状況である。そして、中級スポーツ指導員資格の取得は、①所定の単位取得と②「卒業までに3年間にわたって、120時間(15日)以上の指導実績」が資格申請の条件であるため、これらの条件がスムーズに完了させることが、それらの学生の課題である。所定の単位については、科目の履修と単位取得を下級学年より徹底できるよう指導する。また、指導実績は、本学科独自の考えで、教職課程である「特別支援学校参加実習」を完了させると7日と数えることになっている。残り8日以上をスムーズに完了させるシステムを再構築する必要がある。つまり、現行のシステムは、ここ5年間、20名程度という中級スポーツ指導員資格取得者を可能にしてきたものであり、これが限界なのかもしれない。仮に2倍の40名以上を超える要望に応えるためには、さらに変化していかなければならないだろう。そのためには、学生にとって、よりきめ細かい指導や方策が必要となってくる。たとえば、多忙な学生が、授業の空き時間を利用して指導実績が積めるような、大学近辺の障害者施設等との連携、また障害者スポーツを目的としたイベントを本学健康・スポーツ科学科が開催するなど、今後多くの企画を生むようなシステムにしなければならないと考える。

日本障害者スポーツ協会によれば、さらに新たなカリキュラムが提示されている。本学健康・スポーツ科学科は、2010(平成22)年度入学生より導入することが決定している。特に問題となる指導実績は、「在学中に計80時間(10日)以上の活動実績を積み重ねなければならない」と変更されており、若干の軽減が予想される。過去に検討してきた内容<sup>1-7)</sup>を踏まえ、学生にとって有意義な資格となるように努力していきたい。

## 4. まとめ

過去7年間7題<sup>1-7)</sup>にわたって障害者スポーツ指導者資格についての調査研究を報告してきた。2008(平成20)年度入学生より、本学健康・スポーツ科学科の新しいカリキュラムが実施され、①「学年全員が取得可能になった」、②「障害者スポーツ関連の基幹3科目が3年次後期よりの実施となった」という変化がみられた。この変化が、入学生への中級スポーツ指導員資格の取得に影響を与えると考え、新入学生における意識レベルの調査を実施し、前回報告<sup>7)</sup>した。今回は、前回調査と同じ調査を実施することにより、全般的な傾向および前回(昨年度)調査との比較等を行うことにより、現状把握と今後の指導に生かすことを目的に研究に取り組んだ。調査対象者は、154名であった。

- 1) 本年度調査によると、中級スポーツ指導員資格取得を「強く希望している」19名(12.3%)、「希望している」52名(33.8%)であった。また、障害者スポーツについて「非常に興味がある」16名(10.4%)、「興味がある」56名(36.4%)であった。これらの結果は、昨年度調査と比較して、共に1%水準で有意な差がみられた。さらに、昨年度調査同様、興味ある学生が、中級スポーツ指導員資格の取得を考えている( $p<0.01$ )。
- 2) 1年前期の全学共通教育科目『遊びと障害』および「障害者とスポーツ」を履修した学生は9名(5.8%)、12名(7.8%)で、「履修したが許可がでなかった」学生は9名(5.8%)、12名(7.8%)であった。両科目を重複して履修しようとした学生は10名で、実際32名(20.7%)が興味を示したと考えられる。これらの結果は、昨年度調査とほぼ同数であった。
- 3) 中級スポーツ指導員資格の基幹3科目である3年次後期開講「障害者スポーツ論Ⅰ」の履修については、「履修する」22名(14.3%)、「履修しようと思う」61名(36.5%)、「わからない」79名(51.3%)であった。昨年度調査同様、取得を意識している割にこの科目の履修希望が少ないのは、科目の必要性を理解していないと考えられる。
- 4) 身近なところに障害者がいる学生は42名(27.3%)、障害者と交流するボランティアに参加した学

## 「障害者スポーツ」に対する意識レベルについて(2)

生は48名(31.2%)、障害者スポーツに関するテレビ番組・新聞記事等をよく見る学生は24名(15.6%)、たまに見る学生は122名(79.2%)であった。昨年度同様、学生3分の1が、実際障害者と接しており、またほとんどの学生が障害者スポーツの情報は得ていると考えられる。

- 5) 学生が知っている障害者スポーツの種目は、主に車椅子バスケットボール73名(47.4%)、バスケットボール59名(38.3%)、水泳36名(23.4%)、陸上33名(21.4%)であり、また昨年度と同様の傾向であった。メディアへの露出度、学生本人の経験、全学共通教育科目障害者関連科目履修の影響であると考えられる。
- 6) 今後の指導は、きめ細かい指導を行う必要がある。特に、指導実績を積むことについては、たとえば、多忙な学生が、授業の空き時間を利用して指導実績が得られるような、大学近辺の障害者施設等との連携、また障害者スポーツを目的としたイベントを本学健康・スポーツ科学科が開催するなど、今後多くの企画を生むようなシステムにしなければならないと考える。

## 5. 参考文献

- 1) 永田隆子, 保井俊英, 田中美紀, 藤原進一郎, 「本学健康・スポーツ科学科における障害者スポーツ指導者資格取得制度と課題について」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **50**, 45-54 (2002).
- 2) 保井俊英, 永田隆子, 田中美紀, 藤原進一郎, 「障害者スポーツ指導員資格取得者の現状について」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **51**, 49-55 (2003).
- 3) 保井俊英, 永田隆子, 田中美紀, 藤原進一郎, 「障害者スポーツ指導員資格取得者の現状について(2)」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **52**, 75-83 (2004).
- 4) 保井俊英, 永田隆子, 藤原進一郎, 「障害者スポーツ指導者制度中級スポーツ指導員資格申請について—3年間の指導実績—」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **53**, 51-58 (2005).
- 5) 保井俊英, 永田隆子, 三上真二, 藤原進一郎, 「障害者スポーツ指導者制度中級スポーツ指導員資格取得者のための指導経験について」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **54**, 21-28 (2006).
- 6) 保井俊英, 永田隆子, 三上真二, 藤原進一郎, 「『障害者スポーツ指導者制度中級スポーツ指導員』資格取得者の意識と指導実績について」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **55**, 107-113 (2007).
- 7) 保井俊英, 永田隆子, 濱屋桃子, 三上真二, 「『障害者スポーツ』に対する意識レベルについて—指導者スポーツ中級スポーツ指導員資格取得に結びつけるためには」, 武庫川女子大学紀要(人文・社会科学) **56**, 127-131 (2008).